

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名			
○保護者評価実施期間	2026年 3月11日	～	2026年 3月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	3月11日2026年	～	3月19日2026年
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	4月24日2026年		
○分析結果			
	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	「お子様が安心感を持って過ごし、楽しみながら社会性を学ぶ」という支援方針が全職員に深く浸透しています。この一貫した姿勢が、お子様の情緒の安定のみならず、保護者様からの厚い信頼と安心感につながっています。	日々の終礼や申し送りにおいて、お子様の小さな変化や「できたこと」を即座に共有する時間を設けています。職員全員が同じ視点でお子様を見守り、ポジティブな声掛けを統一して行うことで、自己肯定感を育む環境づくりを徹底しています。	お子様の興味・関心に基づいた新しいアクティビティを定期的に導入し、「楽しい」の延長線上で自然に社会ルールを学べるプログラムのバリエーションをさらに増やしていきます。
2	ICTツールの積極的な活用により、保護者様との連絡の迅速化、および職員間のリアルタイムな情報共有を実現しています。デジタル化による事務負担の軽減を、直接的な支援時間の充実へと上げています。	セキュリティを十分に担保した上で、社内PCだけでなくモバイル端末からも安全にアクセスできる環境を整備しています。これにより、支援現場にいながら過去の記録確認や急ぎの共有が可能となり、情報の「漏れ」や「遅れ」を未然に防いでいます。	蓄積されたデジタルデータを分析し、お子様の成長推移をグラフや写真などで可視化することで、個別支援計画の振り返りや保護者様へのご報告の質をより一層高めていきます。
3	定期的なケース会議の実施と、特定の担当に固定しない「日替わり担当制度」を採用しています。これにより、特定の職員だけでなく全職員が全児童の特性や課題を深く理解し、多角的な視点から質の高い一貫した支援を提供できる体制を整えています。	支援記録の共有をルーティン化し、ミーティングでは単なる報告に留まらず「なぜその行動が起きたか」を全職員で議論する場を設けています。多職種・多目線で情報を多角化することで、支援の偏りを防いでいます。	これまで以上に写真や動画を積極的に活用し、連絡帳だけでは伝わりにくい「お子様の楽しんでいる表情」や「頑張っている様子」を、保護者様へよりリアルに、こまめにお届けできるようにしていきます。
	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流機会が不足しており、お子様が地域社会の一員として活動する場が少ない。	事業所内でのプログラムの充実や安全確保を優先するあまり、外部機関との調整や地域行事の情報収集にまで手が回っていなかったことが主な要因です。	近隣の自治体や児童館のイベント情報を積極的に収集し、お子様の特性に合わせた形で参加できる行事がないか検討します。まずは地域の清掃活動や公園での交流など、無理のない範囲から外との接点を増やすための計画を考えたい。
2	送迎時やモニタリング以外に、保護者様とゆっくり対面でお話ししたり、保護者様同士が交流したりする機会が持てていない。	連絡帳での情報共有は密に行っているものの、送迎時の限られた時間では込み入った相談や、保護者様の心理的なケアまで十分に対応しきれない時間的制約があります。	外部講師を招いた勉強会や、少人数制の個別相談月間を設けるなど、モニタリング以外でも「相談してよかった」と思える対面時間を計画的に確保します。オンライン相談も併用し、忙しい保護者様でも参加しやすい工夫を検討します。
3			